

ほつと

Hello

看護師の「ペアリング制度」
本院の特長!!

掲載内容

- ・小児科医師にインタビュー
- ・ご存じですか？日曜日乳がん検診

第2号

“心あたたまる 看護”を 力に

数字で見る本院の看護(2025年4月1日現在)

看護師数 340名 男女比 女性 95%／男性5% 平均年齢 38.2歳
育休取得率・育休復帰率 共にほぼ100%で働きやすい環境です
時短勤務利用者 43名(子育て中のスタッフも活躍中)



1対1で支え合う“ペアリング制度”

本院の看護局では、2年前から「ペアリング制度」を導入しています。先輩看護師が1対1で寄り添い、安心して学び・成長できる環境をサポートしています。この取り組みは、新人だけでなく、先輩・後輩を問わずみんなで支え合うチームづくりにもつながっています。日々の業務の中でお互いを思いやりながら協力し、チームワークの向上や負担の分散を実現。それぞれの強みを活かし、足りない部分を補い合うことで、協働と補完の関係が自然と生まれています。こうした日々の関わりが、患者さんに対しても温かく、質の高い看護を届ける力になっています。



みんなで育つ教育制度

新人教育の一つとして、本院ではフォローアップ研修にも力を入れています。この研修では、新人同士が集まり、仕事の中で感じた悩みや気づきを話し合います。仲間と意見を交わすことで、視野が広がり、互いに成長できる貴重な時間になっています。2年目からは経験や役割に応じて段階的に成長できる教育制度を整えています(クリニカルラダー制度)。自分のペースで専門的な知識や技術を身につけることができ、他の病院での経験を活かし、安心してキャリアアップを目指すことができます。こうした取り組みを通じて、患者さんにより温かく、丁寧な看護を届けられるよう日々努力しています。

INTERVIEW

新人看護師 インタビュー

入職時は不安もありましたが、ペアリング制度等により先輩からすぐに指導が受けられ、多角的に看護が学べる環境だと感じました。5東病棟は男性看護師も多く雰囲気も良いので、すぐに職場に馴染めました。今では先輩や患者さんから刺激を受けながら成長できています。



ママさん看護師 インタビュー

育児と仕事の両立ができることが本院の魅力です。子供の体調不良での急なお休みなど柔軟に対応していただけ、時間外勤務も少なくなるように配慮して頂いています。時短などの働き方の選択肢もあり、育児と両立しながら楽しく働けています!



小児科医師にインタビュー

小児科
大場 千鶴 医師



市立ひらかた病院の小児科の特徴を教えてください。

小児科では、発熱やせき、けいれん、頭痛、腹痛、嘔吐や下痢、脱水、意識の変化など、様々な急な疾患に対応しています。また、北河内地区の小児科2次救急の拠点病院として、365日24時間、救急車での受け入れも行っています。隣接する北河内夜間救急センターで1次救急を受け入れており、入院が必要と判断された場合は本院に夜間であっても引き継ぐ体制を整えています。小児科の一般診療に加え、神経・腎臓・内分泌の専門的な診療も行っています。

神経分野ではどのような診療を行っていますか。

お子様の「言葉が遅い」「勉強についていけない」「コミュニケーションが難しい」「落ち着きがない」「不器用で困る」などの発達相談を行っています。

お子様の特性をよく理解し、その特性に合わせて関わり方を工夫したり、必要に応じてお薬の力を借りたりすることで、お子様もご家族も今より過ごしやすくなることがあります。また、ADHDや自閉症のお子さんのご相談が多いですが、本院では以下の特性をもつお子さんにも対応しています。

発達性協調運動症

全国でも珍しく不器用さの検査(M-ABCⅡ)を行うことができます。写真は検査の様子で、的にお手玉を投げてもらうなど、お子様も楽しく検査を受けられます。



ディスレクシア

いわゆる学習障害のうち、読みが困難である状態。検査や診断、LDセンターへの紹介が可能です。読めない子が本当に読めるようになる「T式ひらがな音読支援」を広める取り組みを、枚方市教育委員会のご協力のもとで進めています。

→ 現在は、基本的に、紹介患者様のみの受付となっております。ご理解の程、宜しくお願い致します。

本院の柏木医師の著書では、保護者の方や学校・心理職の先生方に向けて、発達が気になるお子さんが小児科の専門外来を受診された際に、診察室でどのようなことが行われているのかをわかりやすく紹介しています。代表的な神経発達症だけでなく、依存症についても取り上げており、発達外来の実際を知ることができる内容となっています。昨年、全国の図書館に推薦する選書として選出されました。枚方市立図書館などでも貸出が可能ですので、一度手にとっていただければ幸いです。



最後に、医師になろうとしたきっかけを教えてください。

阪神・淡路大震災のドキュメンタリーを見たことが、きっかけです。自分が医師でその場にいれば、助かつた人もいたのかなあと、子供心に思ったのがきっかけでした。

ご存じですか?

日曜日乳がん検診

乳がんは日本人女性の**9人に1人**が生涯のうちにかかると言われており、また、年々増加傾向にあると言われています。早期に発見した場合の10年生存率は高く、なによりも早期に発見することが大切なのです。しかし、日本人女性の乳がん検診受診率は他国と比較して非常に低いのが現状です。

検診を受けない理由として

- 忙しい •結果が怖い
- マンモグラフィ検査は痛いと聞くので受けたくない
- 自分はまだ大丈夫だと思う

などが挙げられます。しかし現在、**乳がん罹患数は年間9万人以上**で死亡者数も増加しています。また罹患率の高い年代として40代後半と60代の2相性のピークがあります。敬遠してしまいがちな検査ですが、早期に発見できる大切さを理解し受診してほしいと思います。



▲本院の撮影装置



▲待合の触診体験、TVモニター

本院では10月と2月に日曜日検診を設けています。この機会に受診してみませんか？

精度の高い検診とは

乳がん検診の精度は、一度の検査だけで決まるものではありません。高い検診精度を保つためには受診間隔、装置の性能、撮影技師、そして画像判定する読影医師すべて大切です。



▲マンモグラフィ撮影認定技師



健診センター部長
旭爪 幸恵 医師

マンモグラフィ画像は適切に撮影できなければ
いくら高性能な装置でも精度は十分に発揮されません。

本院ではマンモグラフィ撮影技術認定を取得した女性技師が撮影します。
また、圧迫による痛みを少しでも和らげるよう安心できる
環境作りを目指しています。

マンモグラフィ読影医認定は
定期的に試験があり、一定以上の実力をもって
認定医を名乗れるよう、日々研鑽を重ねています。
また、必ず複数の認定読影医師が画像を確認し
ダブルチェックを行っています。乳がんは、
家事に、仕事にと普段忙しく活躍している世代に
多く発症します。でも、平日は忙しくて
病院の検診に来ることは難しいですよね。
そういう方こそ、ぜひこの日曜日乳がん検診を
受けにいらしてください！

今年度2月は特定健診や

肺がん検診と併用して受診出来ます。
詳細は広報ひらかたや本院ホームページをご覧下さい。乳がんは時間の経過とともに
新たに発生する可能性があります。
2年に一度定期的に受診しましょう。

病院美術館 本院に展示されている美術作品をご紹介します。

作者の藤井範子氏は枚方市在住の日本画家です。本作品「舞う」は、枚方市牧野にある片埜神社(かたのじんじゃ)の築地塀(ついじべい)の扉から、隣接する牧野公園の桜の花びらが舞い込んでくる様子を描いたものです。同公園の桜は、「牧野の桜」として枚方八景の一つにもなっています。

展示場所:1階エントランス奥(小児科手前)

「舞う」 平成12(2000)年作 日展出品作品

